

概

況

（The following text is extremely faint and largely illegible. It appears to be a long, multi-paragraph document or report. The text is arranged in two columns, with the left column starting under the character '概' and the right column starting under the character '況'. The content is too light to transcribe accurately, but it seems to contain detailed information or a narrative.)

## 概 況

### 1. 取扱高

#### (1) 総取扱高

平成元年における花きの総取扱実績は、金額で99億65,977千円である。数量はそれぞれ単位が違うので総数は出していない。又、1日当たりの取扱高においてみると金額では3,311万円である。

#### (2) 部類別取扱高

##### 1) 切花

総取扱高は、数量で1億3,578万8千本、金額では70億2,202万7千円、平均単価52円となった。1日当たりでは、数量45万1千本、金額では2,332万9千円である。

##### 2) 切葉

総取扱高は、数量で932万3千枚、金額では2億3,692万1千円平均単価25円となった。1日当たりでは、数量3万1千枚、金額では78万7千円である。

##### 3) 切枝

総取扱高は、数量で396万3千束、金額では7億5,129万2千円平均単価190円となった。1日当たりでは、数量1万3千束金額では249万6千円である。

##### 4) 鉢花

総取扱高は、数量で233万9千鉢、金額では8億1,142万円、平均単価347円となった。1日当たりでは、数量8千鉢、金額では269万6千円である。

##### 5) らん鉢

総取扱高は、数量で20万1千鉢、金額では3億6,693万2千円、平均単価1,828円となった。1日当たりは、数量667鉢、金額では121万9千円である。

##### 6) 観葉植物

総取扱高は、数量で90万鉢、金額では5億4,634万円、平均単価607円となった。1日当たりでは、数量3千鉢、金額では181万5千円である。

##### 7) 観賞樹

総取扱高は、数量で27万6千鉢、金額では1億5,067万6千円平均単価545円となった。1日当たりでは、数量918鉢、金額50万1千円である。

##### 8) 苗物

総取扱高は、数量で8万1千箱、金額では7,202万9千円、平均単価889円となった。1日当たりでは、数量269箱、金額24万円である。

##### 9) その他花き

総取扱高は、数量で1万5千箱、金額では833万8千円、平均単価546円となった。1日当たりでは、数量51箱、金額2万8千円である。

### 2. 平均価格

#### (1) 部類別平均価格

##### 1) 切花

切花の年平均52円、前年比104.0%であった。前期は終始安定入荷で輪菊平均59円小菊平均27円で取引された。3月に彼岸需要で買われて大幅入荷であったが価格的には荷の豊富さから前月を下回り輪菊74円、小菊42円であった。

11月価格が下落し輪菊40円、小菊16円であった。年末には入荷量も多く年末需要で輪菊74円、小菊23円で終わった。

カーネーションは年平均43円、中輪カーネは年平均30円で取引された。3月は6割程度の入荷増で彼岸需要から買われた。4月は前月を反して入荷量価格とも大幅に下回った。5月に入り母の日の需要から急騰し、カーネーション66円、中輪カーネ44円となった。7月には入荷5割増となりそれぞれ24円と14円で終わった。後半はブライダル需要ながら大量入荷で34円であった。年末はカーネーション56円、中輪カーネ41円で終わった。

宿根かすみ草は、年平均94円前年比182.5%であった。前半人気が高く強含みで推移した。中盤に入り5月は入荷が大幅増で69円で取引された。6月より減少傾向に入り、8月には品薄から急騰し161円であった。後半も品薄から依然高値が続き9月140円、10月292円となった。11月に入り一転して反落、入荷量が倍増し、90円で終わった。12月の相場は弱含みで85円であった。

バラは年平均75円、入荷量も前年より84%上回った。3月入荷量が6割増で価格は104円となった。9月には6割弱上昇し、価格はほぼ横ばいであった。12月に入り年末需要から堅調に推移した。

##### 2) 切葉

年平均25円、前年比104.2%であった。3月には春の彼岸もあって最高のお入荷量とったが、取引は平均推移で終わった。スマイラックスが年平均229円、前年比151.7%と大きく上回ったが、あとはほぼ前年並となった。11月まではほぼ平均推移で12月に入りクリスマス、お正月商戦で平均価格は31円と高値で取引された。

3) 切 枝

年平均190円、前年比131.0%であった。1月は前月を反映してか入荷量は少なかったものの、価格は最高の329円となった。もくれんは前年取引が無く今年前期になって入荷があり、平均価格754円で取引された。12月は年末とあって松市、千両市があり全体の1/3の入荷量であった。価格的には平均を下回り164円で終わった。

4) 鉢 花

年平均347円、前年比90.8%であった。今年は5~6寸物が主体に売れ行き好調で、価格はほぼ前年同月と同水準で推移。前期はプリムラ類が1月、サイネリアが3月入荷急増した。価格はプリムラ類平均167円、サイネリア平均211円で取引された。

中期は夏花の日日草、ハイビスカス等の一部を除いて大幅な入荷減となった。後期はシャコバサボテン、ポインセチアが順調な入荷で中鉢、大鉢に人気があった。年末に入りシクラメン、プリムラ類の入荷が多く贈答向けに5~6寸物に人気が集まって高値で取引された。

5) ら ん 鉢

年平均1,828円、前年比91.7%であった。根強人気の中小型シンビジュームは、入荷量も多く平均1,995円で取引された。10月には人気商材から高値の2,647円で推移した。デンファレ、ファレノプシスなども全体的に入荷量が増え洋花志向と相俟って好調な売れ行きとなり、デンファレ平均963円、ファレノプシス平均3,850円で取引された。

6) 観 葉 植 物

年平均607円、前年比105.0%であった。前期は除序に入荷増となり、ベンジャミン、マッサンゲアーナ、シダ類は買われて強含みで推移した。中期は5月に増加傾向であったが、6月以降減少。マッサンゲアーナは2割減少し、小鉢主体の入荷で大鉢が品不足により反発し1,119円と高値で取引された。シダ類、ディフェンバキアも1~2割減少したが価格は安定推移。後期は全体に需要減退から低調、ただ大鉢物はリース向けに買われ安定推移した。その他ベンジャミン(1,049円)、ユッカ(1,449円)など一部を除いて安め弱めに推移した。

7) 観 賞 樹

年平均545円、前年比114.5%であった。前半春頃より花木類の入荷が多く、くちなし(年平均260円)、ハイドランジア(年平均574円)に人気があった。後半に入りピラカンサ、紫式部など実作物類の出回りから入荷が大幅に増え、ピラカンサは年平均501円、紫式部は264円で取引された。

8) 苗 物

年平均889円、前年比134.3%であった。3月より日日草、サルビアなど春物の出回りにより除序に入荷増となったが、出始めとあって価格はサルビアが1,670円で取引された。後半は、葉ぼたん、パンジーなどの入荷が始まり、10月には葉ぼたん1,030円、パンジー1,986円で取引された。

9) そ の 他 花 き

年平均 546円、前年比574.7%と、大幅な伸びとなった。これは9月に入荷した造園用下草類や、その他花きによる大幅な価格増加によるものです。

月 別 市 況

1 月

(切花類)今年から水曜日を切花休市(原則)として取引が始まったが、出荷体制が慣れず入荷は一定しなかった。取引は、3日のバラを主体とした洋物市で始まり、7日の天皇崩御には白菊の需要が高まったが、価格的な変動はなかった。全般としては祝事の自粛から業務需要が低く、買い控えられ、少なめの入荷ながら軟調に推移した。

(鉢物類)7日の鉢物初市から順調な入荷であったが、前月比では観葉物の4割増加を除き入荷減少した。鉢花では12月に大量入荷したシクラメンに変わって、冬場に入荷集中するプリムラ類(ポリアンサス・ジュリアン・オポコニカ等)が増加したほか、昨年の日照不足により咲き遅れたシンビジュームの入荷もまとまった。相場は安定入荷から総じて弱保合。また、苗物ではパンジー・デイジーが例年より早めに多く入荷し、折しも暖冬から好調に取引された。

2 月

(切花類)切花は、暖冬による前進開花から一部を除き潤沢な入荷となり、前月を11%上回った。主要品目で入荷減少が見られたものの、他品ではストック・フリージア・スイートピーの入荷が目立ち、菜の花・きんせんかも大幅に増加した。取引は、総じて堅調に推移したが、引き続き自粛ムードの中にあつて、カーネーションが前月を上回る価格水準ながら、切葉類とともに依然安値基調であった。切枝では、節目を控え桃の花が多く入荷したが、これも暖冬から下旬の最需要期には品質低下し安値で推移。

(鉢物類)前月まで入荷の多かったラン鉢は減少の足を早め、変わって観葉物の増加が目立ち出した。鉢花ではプリムラ類が半減したが、サイネリアが前月に引き続き増加した。鉢花・苗物とも暖冬で例年に比べ早め多めの入荷となった。2週目からの各週末が雨市であったものの、取引は総じて荷さばき

除除

良好で堅調に推移した。

### 3 月

(切花類)春の彼岸需要を中心とした荷動きであった。切花では主要品目の急増をはじめ、チューリップ・フリージアが入荷のピークを迎え、きんせんかも大量に入荷した。取引は、月初め潤沢な入荷から軟調に推移したが、彼岸を前に一気に買気高まり高水準の取引が続き月末に下げた。切葉ではナルコユリの入荷が始まり、切枝ではこでまり・雪柳・桜が順調入荷した。切葉切枝は総じてしっかりした相場であった。

(鉢物類)らん鉢の12%減を除き今季の暖冬の影響から各分類とも早めの増加傾向を見せた。鉢花ではプリムラ類に変わりサイネリア・ゼラリウム・エニシダの増加が目立ち、前月を72%上回った。ラン鉢ではシンビジウムが減り胡蝶蘭・カトレア等の寄せ物が目立った。観葉物では主要品目のほかスパティフィラムが順調に入荷、苗物では下旬にナス・トマト等果菜苗がスタートした。取引は彼岸の時期を除き総じて堅調に推移した。

### 4 月

(切花類)切花は月間を通じて順調な入荷であったが、彼岸需要で急増した前月に比べ全体では3割強下回った。主要品目がバラを除いて入荷減少した中において、スターチスが前月に続いて急増したほか人気商材のアルストロメリアが順調に入荷した。また、上旬から早々とトルコキキョウが入荷し始めた。切枝は花木類から芽吹き物への転換時期になり半減した。取引は、入学・入社等のイベントが多い時期ながら、一般消費がゴールデンウィークを翌月に控えた出費の手控え、消費税導入による割高感等から伸び悩み、豊富な入荷と相まって軟調に推移した。

(鉢物類)ゴールデンウィークを控えて入荷が増え始め、花物から観葉物に移行してきた。観賞樹ではつつじ・くちなし・あじさい等が出揃い活発な取引であった。観葉物は九州に加え関東各県より荷が集まり安定的に取引された。苗物は作付け時期の天候不順から良品質のものが少なかった。

### 5 月

(切花類)入荷は、輪菊の減少を除いて各品とも順調であった。季節商材では、しゃくやく・花しょうぶが急増し、スターチス・トルコキキョウも順調に入荷した。取引は、前月の荷余り感による軟調市況から一転し、洋花を中心とした堅調相場が続いた。前半は月初めから母の日に向け活発な取引が展開されたが、陽気の締めから切花出荷が押さえられ、母の日の以降後半の取引も下げ渋った。

(鉢物類)各分類とも前月を下回る入荷の中、鉢花では、やはり母の日需要からカーネーションが多く、埼玉県主体に前月の2.5倍入荷した。観葉植物は愛知・千葉県を主体に入荷したが前月を若干下回った。取引はゴールデンウィーク中から翌週は消費低迷から弱含みで推移したが、後半は持ち直した。月の傾向としては鉢花主体に買われたため、観葉植物は良質物が多く入荷したものの前月に比べ弱基調で推移した。

### 6 月

(切花類)切花の入荷量は前月比9%の減少であったが、個別に見ると輪菊・バラの増加を始めトルコキキョウが大幅に増加、すかしゆり・グラジオラスも5割方増加したほか、夏の花りんどうも目立ちはじめた。しかし、前月中旬から下旬にかけての低温の影響を受け開花遅れのグラダラした入荷となった。取引は前月に比べ全般に弱基調ながら低温からかえって入荷の急変動が緩和されたため、昨年のような急落が見られず安定推移した。

(鉢物類)鉢物の入荷量は中元商材としてラン鉢が前月をやや上回ったもののその他は減少した。観葉物の入荷は前月をピークに減少し始め、特に中鉢物が品薄となった。取引は上旬弱基調で推移するもその後回復し、後半から鉢物類全般に品薄傾向になった。

### 7 月

(切花類)切花の入荷は前月・前年同月比ともに1~2割強の増加で、特に盆を控えた10、11日の両日が多かった。主要産地は愛知の白菊を除き、各品とも長野及び関東以北が大勢を占めた。取引は盆の需要から前半活気付くも、行楽シーズンに入り買い控えられ後半は伸び悩んだ。

(鉢物類)鉢花・らん鉢・観葉植物とも入荷順調で前月比1~2割の増加、特に鉢花・らん鉢は昨付け時期の天候不順から出荷がずれ込み今月に集中し前年同月を大幅に上回った。取引は中元需要かららん鉢が好調に推移したほか、観葉植物が中・小鉢主体ながら相場を持ち直し、鉢花とともに安定推移した。

### 8 月

(切花類)切花の入荷は前月を1割下回った。産地は前月に続いて長野を主体に東北方面の入荷が多かった。取引は月初めは台風の影響から雨市が続く荷動きが悪かったが、天候回復とともに売れ始め旧盆まで活気づいた。全般に品薄気味の入荷状況から前月・前年同月を上回る高水準で推移した。

(鉢物類)鉢物の入荷は旧盆期間の急減を始め、各分類とも前月を大幅に下回ったが前年同月に比べると、らん鉢・観葉植物は5割方増加した。また鉢花では月末に長野から早々と

シクラメンが初入荷した。取引は鉢花・観葉植物は品種により相場のばらつきが目立ったが、らん鉢は贈答需要等から夏場の時期としては好調に推移した。

9 月

(切花類) 入荷量は切枝が前年同月に比べ不足気味であったが、切花・切葉は順調に増加した。切花では菊類がハウス・露地とも豊富に入荷したのをはじめ、りんどうが入荷のピークを迎え大量入荷した。取引は上旬は残暑の影響から買気弱く低迷。中旬は彼岸需要から活発な荷捌きであったが、潤沢な入荷のため相場は保合水準で推移。下旬は彼岸時の買気が衰えず入荷の減少と重なり反発した。

(鉢物類) 前月下旬から入荷量が回復しはじめ、全体量としては前年同月を3割上まわった。気温の低下とともに観葉植物から鉢花・らん鉢等を買気に移り、観葉植物は総じて低迷。鉢花・らん鉢は好調に推移した。上旬に早々とポインセチアが入荷した外、下旬には果樹等の実付物の入荷が始まり、柑橘類・ピラカンサをはじめ高水準の取引になった。

10 月

(切花類) 切花の取引は、産地の端境期と前月の残暑の影響を受けた前進開花から、前半は品薄の高単価で推移した。後半は、暖地物の順调入荷から入荷量回復したが相場は下げ渋った。切枝類は前月を1割上回る入荷であったが、季節の紅葉物や実付物の入荷は天候不順の影響をうけ、前年同月を大きく下回った。

(鉢物類) 入荷の主体は観葉植物から鉢花・らん鉢・鑑賞樹に変わった。取引は、観葉植物は総じて低調、特に小鉢・吊鉢物が敬遠された。鉢花は菊類・シャコバサボテンを主体に増加し、良品質物が多く堅調に推移した。らん鉢は胡蝶蘭・シンビジュームの人気が高く強保合であった。

11 月

(切花類) 切花の入荷は、月間総数量では前月と同水準ながら、中旬まで暖かい日が続いたことから荷が前半に集中した。このため売れ行き不振となり、相場は中旬まで低迷した。下旬は陽気が締まり始め買気が戻ったが、相場の回復には至らなかった。切葉・切枝は安定推移した。

(鉢物類) 好天続きが幸いし、末端消費の売れ行き順調から、鉢花・らん鉢主体に好調に推移した。鉢花では、菊類に変わってシクラメン・ポインセチア・プリムラ類が増加、シャコバサボテンも順調に入荷した。観葉植物は前月に続き急減したが、小鉢物の人気薄から下押し。

12 月

(切花類) 切花の入荷は菊類を中心に増加した。品目別に見ると、前年同月に比べ水仙が千葉県主体に倍増したほか、スイートピー・チューリップが5割増、ストックが1割方増加したが、グラジオラス・フリージアは2割強の減少を示した。取引は前月の荷だるみ状態から一転し、クリスマス・年末年始需要に支えられ始終下げ渋った。切枝では、10日(日)に松市、15日(金)に千両市が行われた。松市は1本物減少ながら若松など束物が昨年の7割増、価格は例年並。千両市は入荷変わらず、実付きが今ひとつながら買われて平均単価で昨年を4割方上回った。

(鉢物類) 贈答用らん鉢が多く入荷した。鉢花の入荷は前月・前年同月に比べやや減少したもののクリスマス商材が多く、シクラメン・ポインセチアで総数量の6割強を占めた。取引は好天続きから売れ行き良く、正月用の和物を始め総じて好調に推移した。